

授業科目名 <英訳>	日本史 I Japanese History I		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 高階 絵里加 人文科学研究所 助教 池田 さなえ			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2018・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>							
日本の近代とは、ほぼ19世紀から20世紀前半の時期にあたる。江戸後期には鎖国状態ではあったものの少しずつ海外からの情報も入ってくるようになり、明治維新を境に日本は大きく西洋に向かって門戸を開くことになる。このように日本が現代につながる大きな変革を成し遂げた時期、社会や文化はどのように変化したのか、皇室財産と美術という2つのテーマに焦点を当てて考える。							
<b>【到達目標】</b>							
近代の最も大きな変革期であった明治期の社会と文化について歴史史料と視覚資料にもとづいて理解し、日本の近代史についての幅広く多様な視点の獲得をめざす。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
2人の講師が日本の近代史に関連するそれぞれのテーマで各7回の講義を行う。							
<p>1．テーマ 日本近代美術 開化から変革へ 担当：高階絵里加</p> <p>開国後の日本においてはあらゆる分野に西洋化の波が押し寄せたが、美術もまた例外ではなかった。初めて本格的な西洋芸術の技法や概念に出会い大きく変化した日本の美術について、作品をみながら考える。</p> <p>1: 西洋画法との出会い 桃山・江戸から明治へ 2: 開国後の美術 蕃書調所から初期の渡欧画家たちへ 3: 工部美術学校と明治中期の渡欧画家たち 4: 伝統復興運動と東京美術学校 5: 洋画の発展と主題の模索 6: 日本洋画の新しい表現 7: 受容と交流 日本近代美術のまとめと補足</p> <p>2．テーマ 近代日本における皇室財産の形成 担当：池田さなえ</p> <p>天皇を中心として新しい国家づくりを行う明治政府において、法制度や行政機構の整備などと同様かそれ以上に課題とされていたのは皇室制度の整備であった。特に、皇室の様々な活動を支える皇室財産の確立は急務であった。皇室財産はいかにして形成され、そしていかにして運用されていたのか。本授業では、明治20年代の試行錯誤の過程を、当時の政治家たちの残した書簡や日記などの文字史料から読み解いていく。</p> <p>1: 皇室財産研究の到達点と課題 2: 皇室財産の設定 3: 皇室財産政策担当者の横顔</p>							
----- 日本史 I (2)へ続く -----							

## 日本史Ⅰ(2)

- 4: 皇室財産と産業政策
- 5: 皇室財産と産業政策
- 6: 皇室財産と国土保全行政
- 7: 補足とまとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験 各テーマ1題を出し、解答。  
持ち込みは不可。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

### [その他(オフィスアワー等)]

受講人数は100人を上限とする。  
定員を超えた場合には無作為に抽選を行う。